

# ライニング事業を強化

## カワテックス



### 法令改正が追い風

各種タンクの設計・製造を手掛けるカワテックス(本社砂川)が、マンションや病院、学校などに設置されている地下タンクのライニング工事を強化している。危険物施設の油流出事故防止を目的とした法令改正がことし2月1日に施行され、ガソリンスタンドだけでなく、ボイラや発電機用に地下タンクを設けている施設でもケースによっては対応に迫られることになった。こうした動きを追い風に同社では、老朽化したタンクの延命措置など適切な対処法を提案している。

# FRP施工の優位性提案

## 地下タンク延命措置など

改正する省令」を施行した。既設地下貯蔵タンクのうち、設置年数や塗覆装の種類、設計板厚が一定の要件を満たすものを「腐食の恐れが特に高いもの」と定め、内面の腐食を防止するためのコーティングなどを施すよう示している。

鋼製の二重殻タンクで埋設から50年以上経過し、板厚が3・2ミリ以上4・5ミリ未満のものは、モルタルや強化プラスチックなど外面保護の塗覆装の種類に問わず規制の対象となる。2年間の猶予期間はあるが、13年から対応しなければならぬ。こうした市場背景もあり、近ごろはマンションのボイラや病院の緊急発電用に地下タンクを設けている事業者から、規制

に対する相談が多くなっているという。さらに、ディーゼル発電機を使って水門や排水ポンプを稼働する、官庁の管理者からの問い合わせも少なくないようだ。

ガソリンスタンドを中心とした豊富な施工経験に加え、全国危険物安全協会の認定事業者としての資格も備える同社。今後は、1000本を超えるといわれる札幌などのストック物件を中心に、FRPライニングの優位性を提案していく考えだ。

同社は、鋼製タンクの内側を繊維強化プラスチック(FRP)で覆った二重殻タンクに入れ替えるのほか、既存の鋼製タンク内面にFRPマットを張っていく「FRPライニング施工」を提案。2000年ごろから事業展開し、これまでに4000カ所の施工実績を持つという。その8割がガソリンスタンド向けだ。

灯油や重油などの危険物施設の漏えい事故が多発したのを受け、消防庁

鋼製の地下タンク内面にFRPを張って対応する

FRPを張って対応する

FRPを張って対応する

# NEDO イノベーション推進に47件 エネルギーなどの基礎技術

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、2011年度第1回「イノベーション推進事業(産業技術実用化開発助成事業、研究開発型ベンチャー技術開発助成事業、次世代戦略技術実用化開発助成事業、課題解決型実用化開発助成事業)」として計47件を採択した。産業技術11件、ベンチャー12件、次世代13件、課題解決型11件の内訳。エネルギー、環境、工業、通信、医療などの分野で、いずれも基礎技術や主要部材となり得る研究開発がテーマとなっている。

市)は環境や食品を含む重金属類測定、構造物の強度測定など簡易に行う「レーザー誘起法を借用した携帯型元素分析装置の開発」、日本電気(同・東京)は災害現場での救難やセキュリティなどに利用可能な赤外線力メラ「小型軽量低消費電力化赤外線撮影MEMSセンサー」の開発など、採

三菱化学の太陽光発電システム

物産

使い、大面積の折板屋根などに設置。工場や倉庫の壁面にも対応できる。

太陽光発電システムの需要を伸ばしている。

太陽光発電システムの需要を伸ばしている。

太陽光発電システムの需要を伸ばしている。